

一九春闘勝利 全横浜港湾 第十三回ボウリング大会

二月二十四日、春日和の暖かい日曜日、昨年と同じボウリング場で「一九春闘勝利・全横浜港湾ボウリング大会」を開催した。

今回はボウリング場の施設が老朽化し、本年二月いっぱい閉店することが決まったなかで、閉店最後の日曜日に大会を開くこととなった。



また、老朽化による機械故障もあり、今回は三レーンを予備レーンとして空け、二五レーンで総勢二〇〇名の参加で行われた。男性九一名・女性九名計一〇〇名)ゲームは二ゲーム合計の総得点で団体と男女別の得点による個人戦で闘われた。

今年も、十時からの受付前に多数の参加者が会場に



来ていただき、嬉しいやら待機時間が長くなるなどがあったが、十時三十分には三階に集合し開会式を開始後、競技がスタートした。若い人から年配者までの組合員が力を込めてピンをめざしボールを投球、スト

ライクを取るたびに歓声があちこちと湧きあがっていた。全横浜港湾で娯楽を含めた各職種での交流を行なう場が少ないなかで、各職種が一丸となっての機会を高める交流のボウリング大会となった。

また、今年の団体戦は優勝・楠原輸送船内務組一二九三ピン、準優勝・山九海陸横浜労組一二六九ピン、三位・検数共闘会議二二六六ピン、四位・横浜船舶作業労組二二五九ピン、五位・シンケン労組二二四五ピンでした。そして、今年は検数共闘の渡辺弘二さんがなんとオールストライクのパーフェクトを達成し、第十三回ボウリング大会を締めくくった。(記・渡邊書記長)

リレー随筆 春闘討論集会の参加 ~神戸港湾~

全国港湾教宣誌で愛読の皆さんこんにちは。今月の随筆を担当する教宣委員の岡部です。

さて、私の出身は横浜なので、二月二十六日の神戸港湾春闘討論集会に参加させて戴きました。この際、神戸港湾の皆さんの暖かいご理解と協力のおかげで大変良い勉強をさせて頂きました。

吉岡議長をはじめ役員・幹事の皆さん、そして神戸港で働く組合員の皆さん、この場をお借りして、大変有難うございました。

そして、参加させて頂いた感想と致しましては、地区港湾によって様々な独自の抱えている問題が第一の感想です。

そして、その問題はやはり産別一体となって組織が解決していかなければならぬと改めて思いました。また、討論集会では「事前協議違反に対する二四スト」を二十八日に構えておりましたが、二十五日に全国港湾より延期指示が出

り、その経緯について全国港湾玉田書記長より報告をされていました。日港協が発言したのは「事前協議の厳格な運用に努める」と沖繩港湾に端を発した「事前協議違反について三者協議を見守りつつ継続協議を行う」との報告を受けました。



しかし、三月六日に行った第二回中央団交に於いて日港協は「船社に対して申請を提出しろ」と言えない」との回答でした。

私は日港協が「厳格な運用……」と回答すると思っておりましたが、話が一通りしたと感じております。いずれに致しましても、この事前協議違反問題は、私達の雇用・職域の観点から、しっかりと解決していかなければならない問題だと、一組合員として痛感致しました。

因みに、写真は一九春闘中央行動の流れと全国港湾第十六回港湾労働セミナー

開催の報告を行っているものです。(写真提供・全倉連中辻氏) 随筆記事とは少し違った内容になってしまいました。が、今月の随筆とさせて頂きます。次回の随筆記事は、石渡教宣委員の登場でございませう。どんな随筆になるか、乞うご期待です。

各地区港湾コラム① 関門港湾

関門港湾

門司港は、神戸・横浜・函館に次いで一八八九年特別輸出港とし開港されました。開港以来石炭の積出港として、一九四〇年の下関、小倉の三港が合併し関門港となりました。一九六三年北九州

市が誕生(門司、小倉、八幡、戸畑、若松の五市が合併)すると関門港の門司側は洞海湾も加わり北九州港と呼ばれるようになりました。

コンテナ化が進むまでの在来荷役では関門海峡が浅く本船が岸壁に直接着岸できない為、沖のブイに係留し、舳に積換え岸壁で荷揚げする為、沖仲しと呼ばれる港湾労働者が活躍した時代です。

対岸の下関市には国際フェリーである関釜フェリーや中国RO・RO船の夕

西日本初のCTである田浦CTが供用開始され、さらに一九七九年太刀浦CTが供用開始となりました。

太刀浦地区以外には国内長距離フェリーのターミナル(三社四航路八便就航とは別に小倉港より四国へ一便就航中)がある新門司地区や鉄鋼、非鉄金属などを中心とする小倉(日明)地区、鉄鋼製品、化学製品や石炭等を中心とする洞海地区など、それぞれが違う性格の港です。二〇〇五年には、ひびきCTが供用開始され新たな姿に変わろうとしています。

関門港湾は毎年五月に行われる「門司みなと祭り」の祝賀パレードには「関門港湾今昔物語と銘打ちパレード」に参加して今年で十八年目となります。港湾労働の歴史を知ってほしいと思い現在の企画を継続しています。

また、関門港湾の範囲には門司、下関、小倉地区、洞海と四つの港運協会があり、一つの事例でも四つの事前協議が必要になることもあり、他の地区と大きく違う面でもあると思います。

今後の課題としてはやはり、労働者不足です。四Kや五Kと呼ばれる職業となつてしまい、中堅の方も離職される例が絶えません。三六四日二十四時間稼働する港湾において、働き方改革の労基法改正に適応する為、作業体制の整備が喫緊の課題です。港湾を魅力ある職場とするため、労働組合として意見を発信していきたいと思

ひびきコンテナターミナル

太刀浦・田野浦・門司地区

門司地区

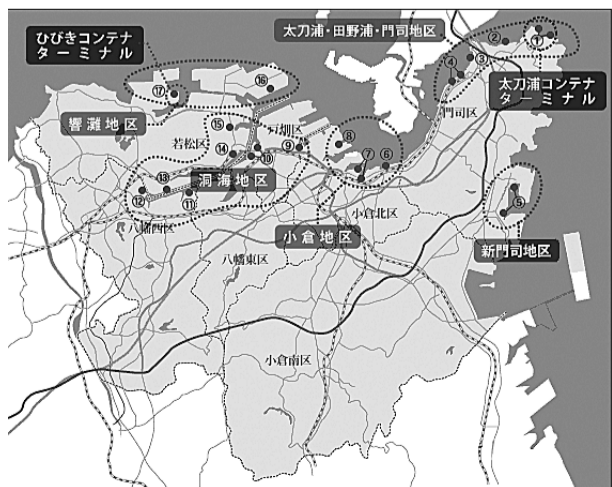
洞海地区

小倉地区

新門司地区

八幡地区

小倉南区



よくねがいます!

全労済  **こくみん共済** coop

全国労働者共済生活協同組合連合会